

令和2年度 健康福祉部 重点目標

	重点事項	成果目標
1	<p>新型コロナウイルス感染症の第2波に備え医療・検査体制を充実させます。</p>	<p>① 府民の行動変容とクラスター発生の未然防止</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「三密」の防止や手洗い・うがいの励行などの啓発を継続的に行ない、府民の行動変容を促すとともに、クラスター発生が懸念される医療機関や社会福祉施設における感染防止対策を講じ、新たな生活様式を踏まえた新型コロナとの共生ができる体制を整えます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉施設における感染防止対策：個人防護具の備蓄支援、ゾーニングに係る支援を行います。 <p>② 医療提供体制の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナウイルス感染症の第2波に備え、受入病床の拡充を図るとともに、軽症者が療養する宿泊施設を拡充し、安心できる医療提供体制を整えます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 患者受入病床数：400床（5月18日現在264床） ○ 中北部地域において、人工呼吸器を活用し重症者を受入れることができる病床を確保するとともに、周産期母子医療センターや透析医療機関などにおける新型コロナウイルス感染症患者の受入れの役割分担を進めるなど、診療体制を充実させます。 <p>③ PCR検査体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 保環研や保健所での検査体制強化や機器整備、民間検査施設の拡大により、クラスターが発生した場合や緊急手術、妊婦等に係るPCR検査にも対応できる体制を整備します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 帰国者・接触者外来設置医療機関数：45医療機関（5月18日現在39医療機関） ・ PCR検査数：8月末約670件／日（5月18日現在約300件／日） ・ 検査センター実施場所：5箇所（5月18日現在2箇所）

令和2年度 健康福祉部 重点目標

	重点事項	成果目標
1		<p>④ 医療従事者の安全確保</p> <ul style="list-style-type: none">○ 命を守るために最前線で活動する医療従事者を感染から守り、診療機能の停止や医療崩壊を防止します。<ul style="list-style-type: none">・ 緊急手術等を行なう際の PCR 検査の実施支援・ 医療従事者への特殊勤務手当の支給助成・ 医療従事者と家族との感染リスクの軽減や不安解消のためのホテル宿泊支援○ 医療資材コントロールセンターにおいて、医療機関の医療資材の保有状況等を定期的に把握し、必要量を確保するとともに、計画的に配布し医療機能を確保します。<ul style="list-style-type: none">・ 定期的な医療資材の需給調査参加病院：全病院○ 希望する全ての妊婦が自己負担なく PCR 検査を受けられるよう助成制度を創設します。

令和2年度 健康福祉部 重点目標

	重点事項	成果目標
2	<p>子育て家庭にとって魅力あふれる京都づくりをオール京都体制で推進します。</p>	<p>① <u>子育て環境日本一の京都づくり</u> <u>「子育て環境日本一推進戦略」を踏まえ、京都から社会を変えるために、子育てにやさしい地域・まちづくり、保育人材の確保・雇用環境創出等、子育て支援策にとどまらない幅広い取組を府内各地域で展開します。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 子育てにやさしい風土に包まれた京都府社会の実現 <ul style="list-style-type: none"> ・ 行政、経済団体、保育・教育団体等のトップが、子育て環境日本一を目指して、それぞれが行動を開始する決意表明を行うとともに、各広域振興局を核として、地域における自発的な取組を促進し、子育て環境日本一を目指す機運醸成を図ります。 ○ 子育てしやすい安心・安全なまちづくりの実現 <ul style="list-style-type: none"> ・ 安心して子どもを産み育てることのできるまちは、全ての人にとって住みやすいまちであり、子育てにやさしいまちづくりが府全域で展開されるよう、安心して遊べる公園づくりや地域住民による子育て家庭の応援などに取り組む市町村をハード・ソフトの両面から支援するモデル事業を開始します。 <数値目標：3～4市町村> ○ 若者が安心して結婚・妊娠・出産・子育てできる雇用環境の創出 <ul style="list-style-type: none"> ・ 京都で学び、京都で就職し、京都で家庭を持ち、子育てを楽しめる環境を整えるため、京都企業の魅力を知るとともに、仕事と育児の両立を体験できるプログラムの策定・実施、テレワークや子連れ出勤、子どもとともに働ける環境整備を進め、若者に魅力的な雇用環境づくりを促進します。 ・ 安心して働き子育てできる環境を整えるため、多様な保育環境を整備するとともに、幼児教育や保育を支える質の高い人材を確保できるよう、人材の確保とともに職場環境の改善に努めます。 ○ 地域の絆・地域の子育て力の再構築 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民などが、子育て家庭を守り、応援し支える地域の絆・支え合いの文化を再構築します。 <数値目標：赤ちゃん応援隊等の支援活動実市町村：13市町村（R1 5市町村）>

令和2年度 健康福祉部 重点目標

	重点事項	成果目標
2		<p>② 虐待・不登校・ひきこもりを生まない環境づくり 様々な子どもの問題に切れ目なく対応できる環境を整え、全ての子どもが健やかに育つことのできる地域を実現します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童虐待の未然防止、早期発見・早期対応のできる環境づくり <ul style="list-style-type: none"> ・ DV由来の虐待事案の早期発見に向け連携推進員を配置するとともに、虐待の通告件数の増加、複雑化に対応していくため、市町村や警察、関係団体とのネットワークを強化します。 ・ 児童相談所の体制・機能強化を図るために、増加する若手職員をはじめ、人材の育成、資質向上の取組を促進します。 ○ 学齢期からの切れ目のないひきこもり対策、市町村の相談・支援体制の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・ 在学時から学校ときめ細かく連携し、不登校からのひきこもりを生まないよう、相談支援に努めます。 ・ 脱ひきこもり支援センターに市町村支援員を配置し、全ての市町村において、ひきこもりに対する相談や初期の支援を行える体制を整備します。 <数値目標：全市町村での相談窓口の設置（R1 15市町村）> ○ 子どもの貧困の連鎖防止対策の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 京都府教育委員会や市町村との連携をさらに強化し、学校をプラットフォームにしたモデル事業を開始し、実践対応のノウハウを集積するとともに、「きょうとこどもの城事業」の拡充に努め、すべてのこどもが生まれ育つ環境に左右されることなく、その将来に夢や希望を持って成長していける京都にします。 <数値目標：こどもの城づくり事業による事業実施箇所 200か所（R1 147か所）> ・ 法改正により、市町村においても子どもの貧困対策推進計画の策定が努力義務とされたことを踏まえ、全てに市町村において計画が策定されるよう支援します。

令和2年度 健康福祉部 重点目標

	重点事項	成果目標
3	<p>安心できる介護・福祉の実現と共に支え合う共生社会を実現します。</p>	<p>① <u>介護・福祉人材の確保・定着</u> <u>だれもが住み慣れた地域で、安心して暮らせる介護・福祉の実現のため、介護・福祉人材の確保・育成・定着支援の取組を進めます。</u></p> <p><数値目標：H30 から R2 の3年間で7,500人の確保（H30 2,485人、R1 2,523人、計5,008人）></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ きょうと福祉人材育成認証制度の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 認証事業所、上位認証法人制度の浸透を強力に推進、福祉職場のイメージアップを図ります。 ・ 大学や福祉施設、関係機関とタイアップし、「働きやすい職場」を全面に出した広報を展開、新卒者から選ばれる業界を目指します。 ○ 北部福祉人材養成システムの推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 北部フィールドワーク事業について、令和2年度からの社会福祉士資格取得に係る大学カリキュラム変更等を見据えて柔軟に対応するなど効果的に展開し、大学生等の北部誘致・定着を推進します。 <数値目標：北部フィールドワーク事業参加者数 170人（R1 151人）> ・ 北部の特性を活かした「ミニ就職説明会」や「次世代担い手育成事業」を推進、北部出身者の北部定着を誘導します。 ○ 外国人介護人材支援センターの整備 <ul style="list-style-type: none"> ・ 在留資格を限定せず、介護職場で働く外国人や受け入れ事業所の職員の悩みごと、困りごとについての相談窓口を京都府社会福祉協議会に設置。福祉業界への情報提供も行います。

令和2年度 健康福祉部 重点目標

	重点事項	成果目標
3		<p>② 障害者が暮らしやすい社会</p> <p><u>障害のある人もない人も、地域で安心して暮らすことができる共生社会の実現を目指します。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 発達障害児が地域で安心して暮らすための医療提供体制等の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「舞鶴こども療育センター」に常勤医師を1名増員し、診療待機時間を短縮させるとともに、地域支援充実のための多職種連携体制を構築します。 ・ 向日が丘支援学校の改築に伴う長岡京市共生型福祉施設の整備に併せて、乙訓地域を中心とした府南部地域の発達障害に係る専門医療機能の確保等について検討します。 ○ 障害者が希望に添って働くための就労支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者の就農・就労人材を育成するチャレンジ・アグリ認証講座をより実践的なカリキュラムで実施するとともに、農福連携製品の6次産業化を支援し、農業分野等での就労を促進します。 ・ 就労支援事業所の商品の新開発・改良、ブランド化、共同発注の拡大等を通じて工賃向上を図ります。 <数値目標：農福連携事業実施事業所 38箇所（R1 28箇所）> ○ 障害者のスポーツと文化芸術の振興を支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ 2020東京パラリンピックに向けて、スポーツを楽しめる機会の継続・裾野拡大やアスリート・指導者の育成を支援します。 ・ きょうと障害者文化芸術推進機構を中心に、障害者が制作した作品の販売・商品化の推進や芸術系大学等と連携した作品展の開催などにより障害者の芸術活動の魅力を積極的に発信します。 ○ 災害時要支援者のコミュニケーションを支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害特性に応じたきめ細やかな避難所運営が市町村において可能となるよう、情報伝達やコミュニケーションなどを円滑に行う備品整備を支援します。

令和2年度 健康福祉部 重点目標

	重点事項	成果目標
4	<p>全ての地域で質の高い医療体制が確保され、適切な介護が受けられる仕組みづくりを進めます。</p>	<p>① <u>質の高い医療体制、医療人材の育成・確保</u> <u>在宅医療から高度医療まで高い水準の医療体制を府内全域で整えるとともに、そのために必要な医療人材の育成・確保を進めます。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 緊急性や専門性の高い対応が必応な疾患に係る医療提供体制を構築 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「脳血管疾患、心疾患、ハイリスク分娩」については、24時間365日、緊急性や専門性の高い医療提供体制を構築する必要があることから、今年度目直しを行う保健医療計画において、医療機関の役割分担を明確にして医療提供体制の充実を図ります。 ○ 医師確保計画に基づく医師少数区域及び医師少数スポットでの医師確保の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学、医師会、関係団体等で構成される医療対策協議会において、医師少数区域や医師少数スポットなど医師確保困難地域への医師の配置について協議し、決定する仕組みを構築します。 ・ 地域の医療ニーズに対応した医師を確保するため、圏域内の中核的医療機関を核として医師確保を図り、周辺のへき地診療所への医療派遣並びに技術指導・援助するなど地域医療提供体制を強化します。 ○ 地域包括ケア構想の実現に向けた取組の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 京都府地域包括ケア構想に基づき、2025年に不足する回復期、慢性期機能を担う病床を計画的に整備します。特に山城北圏域及び山城南圏域については新たな病床の整備のための調整を行います。 <数値目標：山城北圏域 362床、山城南圏域 50床の病床配分>

令和2年度 健康福祉部 重点目標

	重点事項	成果目標
4		<p>② 高齢者が暮らしやすい社会 <u>人生100年時代を見据え、高齢者の社会参加を促進するとともに、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、医療・介護・福祉の連携による地域包括ケア体制を強化します。</u></p> <p style="text-align: center;">＜数値目標：介護予防事業（サービス内容や地域等）を拡充したNPO数 40団体＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域における介護予防や生活支援の促進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の多様な介護予防・生活支援ニーズに対応していくため、保健所に設置した共助型生活支援推進隊が中心となって、市町村が実施する介護予防事業等を支援し、充実を図ります。 ・ 住民主体の通いの場に医療専門職等が関与し、健康づくりやフレイル予防の取組を支援する仕組みづくりを進めます。 ○ 認知症にやさしいサービス創出の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者に身近なサービスを提供する企業等を集結し、認知症の人や家族にやさしいサービス提供の具体化を図るなど、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを進めます。 ○ ロボットリハビリテーションの普及 <ul style="list-style-type: none"> ・ 府内の病院への技術的指導や相談の実施、研修等を活用した介護施設や福祉施設への紹介、さらに府内企業との情報交換や研究支援などにより、リハビリロボットの普及を図ります。

令和2年度 健康福祉部 重点目標

	重点事項	成果目標
5	<p>健やかで生き生きとした暮らしの実現を目指します。</p>	<p>① <u>エビデンスに基づいた健康づくり対策の実施</u> <u>府民全員が自らの健康は自ら守るとの意識を持ち、健康診断やがん検診の受診、生活習慣の改善に取り組めるよう、医療・介護等のデータを活用し、保健所・市町村・各保険者・大学・企業等と連携してエビデンスに基づいた対策を講じ、健康社会の構築を目指します。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 府民の健康データを経年的に整理・分析し、活用できるシステムの構築 <ul style="list-style-type: none"> ・ エビデンスに基づいた健康づくり対策を講じるための基礎データとして、府民各世代の健診、医療、介護の経年データを一元管理し、データ分析を進めるとともに、市町村職員や保健所職員のデータ分析能力を高め、各医療保険者がエビデンスに基づく施策を展開できるよう支援します。 <p style="margin-left: 40px;">＜数値目標：データ活用のための研修会参加市町村数 26 市町村（R1 22 市町村）＞</p> ○ 受診率の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・ 特定健診やがん検診受診率の向上に向け、年代や性別、過去の受診歴や血圧が高いなどの健診結果などに応じた受診勧奨や WEB 申し込み、検診受診時の乳幼児一時預かりの実施など、受診環境の整備を進めます。 <p style="margin-left: 20px;">＜数値目標：健診受診率向上を目指した府作成の媒体を活用して特定健診受診勧奨を実施した市町村数 13 市町村（R1 7 市町村）＞</p> ○ ハイリスク者対策 <ul style="list-style-type: none"> ・ 網膜症、腎症、末梢神経障害などの合併症を併発する恐れのある糖尿病の重症化予防、全国平均に比して死亡数の多い心疾患の発症予防など、健康リスクの高い方に対する保健指導を強化します。 <p style="margin-left: 20px;">＜数値目標：糖尿病重症化予防対策（治療中ハイリスク対象）実施市町村数 15 市町村（H30 10 市町村、R1 10 市町村）＞</p>

令和2年度 健康福祉部 重点目標

	重点事項	成果目標
5		<ul style="list-style-type: none"> ○ 働き盛り世代や健康無関心層に対する働きかけ <ul style="list-style-type: none"> ・ 健康づくり無関心層へアプローチするため、令和元年度に実施したアプリを活用したウォーキング勧奨、理美容室の待ち時間を利用した健口体操などの口腔ケア対策、適塩おぼんざいの普及、多様な主体が連携して健康寿命延伸の取組を進める「ヘルス博 Kyoto」の開催結果をデータ分析しエビデンスに基づいた健康づくり対策を市町村と共により幅広く展開します。 <p style="margin-left: 20px;">＜数値目標：アプリを活用したウォーキング勧奨 実施市町村数 10市町村（R1 3市町村）＞</p>